



6 タイヤチューブいかだ

青森県立種差少年自然の家

○活動の概要○

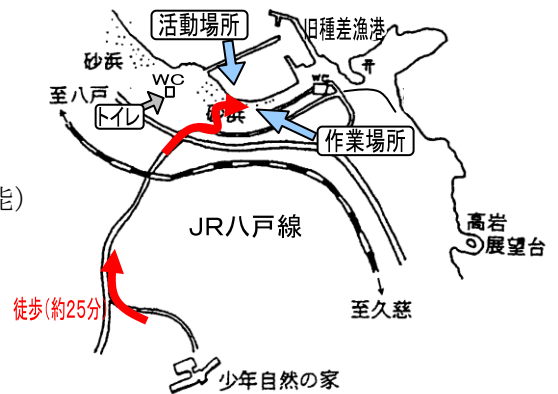
種差漁港までタイヤチューブを運んで午前中にいかだをつくり、午後につくったいかだに乗って遊びます。

1 ねらい

いかだを組み立てる活動を通して、仲間と協力することの大切さと作り上げる楽しさや喜びを感じさせます。

2 場所・人数・期間・時間

- ① 場所 種差漁港
人数 120人以内 ※小学校高学年以上が望ましい
(1グループ8～12人程度で10艇まで製作可能)
- ② 期間 5月上旬～10月中旬
- ③ 時間 午前、午後を通して5～6時間



3 職員の支援について

つくり方説明及び安全確保のために、職員が1名活動支援に入ります。

4 準備物

区分	準備物	備考
団体	・監視船借上料 20,000円 (単独校利用で1～2艇は10,000円) ・緊急車両	※必要に応じて熱中症防止対策 ※複数団体で利用する場合は折半
個人	・いかだ遊びに適した服装 ・タオル、帽子 ・ぬれてもよい運動靴 ※必要に応じて雨具(雨合羽等)	・水着禁止 ・必ずぬれます。 (長靴、サンダルは不可)
自然の家	★移動用 AED ☆救命胴衣 ・いかだ用具一式 (タイヤチューブ5、角材長3、角材短4、 座板3、オール6) ・ハンドマイク ・簡易テント(2張)	★必ず持って行ってもらいます。 ☆全員着用してもらいます。 ・10艇まで

5 引率者の役割分担

係名	役割
代表責任者	・全体の掌握、指揮、連絡にあたる。
いかだ出発係	・いかだ出発時の安全指導を行う。
いかだ到着係	・いかだ到着時の安全指導を行う。
監視船担当	・監視船に乗り込み、安全指導を行う。
救護係	・緊急時の救護、搬送にあたる。

6 活動の流れ

- ① 活動説明（代表責任者・職員）
- ② ライフジャケット借用、後片付けの説明、移動（※タイヤチューブは所で運搬します）
- ③ いかだづくり【職員が作り方を指導】（午前）
- ④ 昼食
- ⑤ いかだ遊び【職員が乗り方を説明】（午後）
※1回で乗れるのは6人（4人でも可）。その他の参加者は乗り降りの時にいかだを押さえる補助係。
- ⑥ いかだ解体・トイレ清掃
- ⑦ 物品返却・移動
- ⑧ ライフジャケットを水ですすいで返却、タイヤチューブ返却
- ⑨ 靴をすすぎ、足を洗って館内へ

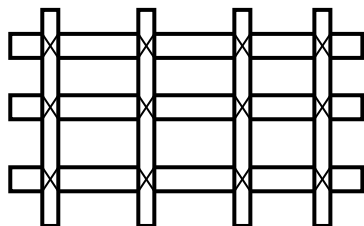
7 その他

- ・ 監視船は風で流されたいかだを誘導したり、海中に落ちた子どもを救助したりするため必要です。
- ・ 漁港は遊泳禁止区域なので、泳げません。
- ・ 活動終了後に、トイレの掃除をしてください。
- ・ ぬれてもよい運動靴と乾いている運動靴を用意することで靴ずれを防止することができます。

《資料》

1 タイヤチューブいかだの作り方

- (1) 角材をロープで結んで型枠を作ります。
※角材の端は必ずはみ出すようにします。



- (3) チューブを型枠に結びつけます。
※チューブの空気注入口を下向きにします。

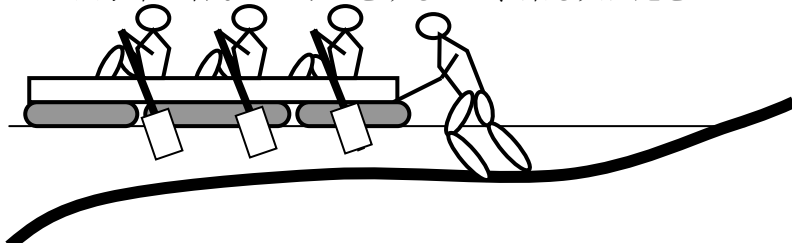
- (4) 型枠の上に座板を結びつけます。

- (2) タイヤチューブを5個つなぎます。
(大きいものを中心にして)
※ゆるまないようにしっかりとしばります。
※空気注入口の向きをそろえます。



2 遊び方

- (1) いかだに乗った後、補助の人が自分の膝上くらいの深さまで押し出します。
※水中の岩などでけがをするので、乗る人は足をいかだの上に乗せます。



※事前にオール使い方、呼吸の合わせ方等を練習しておくとお楽しみます。

